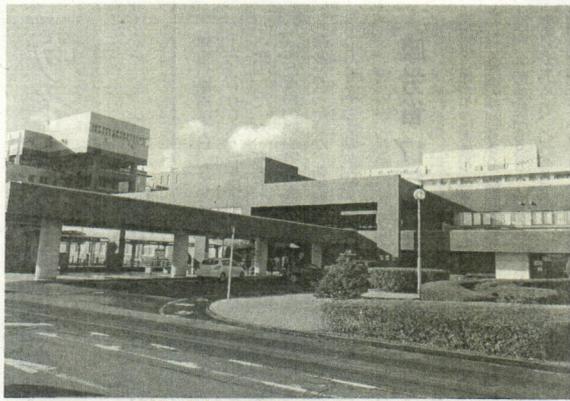


# 認知症外来に薬剤師が関与 生活踏まえ指導や提案



地域の認知症治療の拠点となる大分大学病院

大分大学病院の薬剤師は約1年前から認知症の外来診療に関わっている。「服薬アドヒアランスが不良のため、関わってほしい」と医師から依頼を受けた症例を対象に週2回、総合内科の外来診療室で認知症患者やその家族、介護者らと面談。個々の生活スタイルを詳しく把握した上で、それに応じた服薬の方法や回数を一語に考えたり、副作用への対応を考慮して医師に提案したりしている。薬剤師が関わった症例では、実際に服薬アドヒアランスが高まった。近年は薬局薬剤師との連携も強化。患者に応じた最適な薬物療法の実現を、地域の薬剤師全体で支援しようとして取り組んでいる。

大分大学は2015年に認知症先端医療推進センターを設置した。神経内科、総合内科・総合診療科、精神科の3診療科が協力して診療や研究、教育を行う体制を整備。その一環として、地域の医療機関へ紹介を受けた認知症患者を、3診療

科が分担して週3日診療する「ものわかれ外来」を開始した。神経内科、総合内科・総合診療科、精神科の3診療科が協力して診療や研究、教育を行う体制を整備。その一環として、地域の医療機関へ紹介を受けた認知症患者を、3診療科が分担して週3日診療する「ものわかれ外来」を開始した。

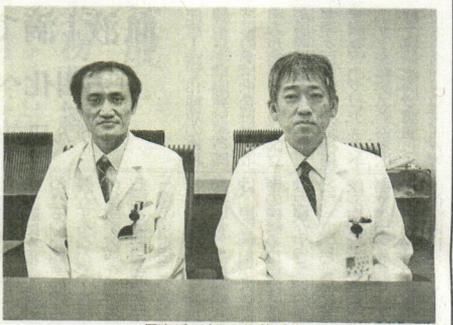
ものわかれ外来での薬剤師の関与は15年8月から始まった。週2回、水曜日と木曜日の午後5時から、総合内科・総合診療科の外来診療室に面談している。1回の面談時間は10、30分。面談は、医師の診察前に行う場合もあるが、基本的には診察後に医師の診察から依頼

## 大分大学病院薬剤部

週2回患者や家族と面談  
服薬アドヒアランス向上

薬剤師が関与する事例は他

診療科の医師から薬剤師に対して「ものわかれ外来に薬剤師が関わってほしい」と依頼があった。大分大学医学部教授・副病院長・薬剤部長の伊東弘樹氏は「医師は一人ひとりの患者をしっかり診察したいと考えているが、外来の患者数は多く、医師が人に割ける時間が限られている。総合内科の医師は以前から薬剤師の職能の理解があり、薬に関する部分は薬剤師に担当してもらいたい」と依頼があった。



伊東氏(右)、佐藤氏

認知症の外来患者に病院薬剤師が関与する事例は他

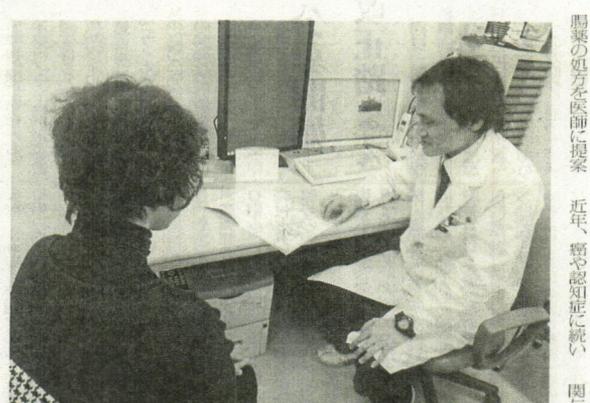
薬剤師が関与する事例は他

薬剤師が関与する事例は他

薬剤師が関与する事例は他

Next ステージ

7割は服薬アドヒアランス不良の患者と面談している。1回の面談時間は10、30分。面談は、医師の診察前に行う場合もあるが、基本的には診察後に医師の診察から依頼



外来診療室で薬剤師が認知症患者に面談する(同院薬剤部提供)

外来診療室で薬剤師が認知症患者に面談する

薬剤師が関与する事例は他

外来診療への関与、拡大へ

大分大学病院薬剤部は

外来診療への関与、拡大へ

外来診療への関与、拡大へ

外来診療への関与、拡大へ

外来診療への関与、拡大へ

薬剤師が関与する事例は他

薬剤師が関与する事例は他

薬剤師が関与する事例は他

全薬剤師必読! 調剤業務の規範書!!

# 第十四改訂 調剤指針

日本薬剤師会 編 85判/511頁 定価4,800円+税

薬事日報社 書籍のご注文は、オンラインショップ(<http://iyakuji-shop.jp/>)または、書籍注文FAX03-3866-8408まで。

三菱UFJキャピタル執行役員ライフサイエンス部長の長谷川宏氏は

手がけていない。対象疾患や

周辺のインフラ技術を持つ

企業は投資しなくてはならない